



平成23年度正賛合同会議開催

(社)電池工業会は、平成23年度正賛合同会議を、9月2日ホテルモントレエーデルホフ札幌（札幌市）で、正会員15社、賛助会員46社、総参加者115名の出席のもと開催した。

会議では本間会長より、東日本大震災の対応、最近の経済環境、電池工業会の取り組み、電池業界の市場動向、今後の電池業界の動向、等が紹介された。また中谷専務理事より、新入会員の紹介、直近の電池市場動向、環境問題への取り組み、リチウムイオン電池の取り組み、広報活動の紹介、等が説明された。また、記念講演として、プロゴルファーの森口祐子氏が「ゴルフから学んだもの」と題して講演された。

1. 本間会長挨拶（抜粋）

皆さん、こんにちは。本日はご多忙の中、電池工業会・正賛合同会議にご参集いただきまして、誠に有難うございます。

●東日本大震災の対応について

今回が東日本大震災後、初めての正賛合同会議となります。改めまして、被災された多くの会員企業様、従業員並びにそのご家族の方々を始め全ての皆様方に謹んでお見舞い申し上げます。

また、会員企業の皆様方には、震災対応でご多忙な中、乾電池を始め様々な支援物資、義援金等の提供にご尽力いただき、誠にありがとうございました。

これまでの電池工業会としての支援物資の提供実績は、乾電池：135万個、充電式電池：72万個、懐中電灯：12万1千個、ランタン：5千台、蓄電システム：20台となっております。他に、義援金あるいは食料品等のご提供もあり、支援を実施しております。

今回の大震災で私が非常に重要と感じたことが2点あります。1点目は、「企業の事業継続性」です。東北地方での部材の生産がストップすれば、世界の工場がストップする現実を知り、改めて、部材メーカ



一の供給責任の重さを知らされました。

会員各社様、日頃より、震災や台風などの被災時に生産がストップした場合、その後、自社の生産を早期に復帰させる為のリスク管理マニュアルを常備されている事と思いますが、さらに供給を受けている部材の確保は言うまでも無く、事業再開のためには、エネルギーの安定確保も非常に重要である事を痛感させられました。各社様も、今後、この様な観

点より、事業継続の為の指針の見直しをご検討される事をお勧めいたします。

2点目が、「社会インフラにおけるバックアップ電池の重要性」です。今回の震災や電力不足による停電で、全国的にその重要性が再認識されたことと思います。とりわけ、輪番停電に対応した、電灯用の電池や病院の様々な医療機器、交通信号機、企業や自治体の中枢コンピューターなどの数時間のバックアップ用電池は、特に重要と再認識されております。

今回、停電により、信号機が作動しなくなった地域では、交差点での交通事故でお亡くなりになった方もおられます。信号機にバックアップ電源が常備されていれば、この様な悲劇も起こらずに済んだはずです。今後、これらの機器へのバックアップ電源の装備率アップは、業界として積極的に推進していきたいと思っております。

●最近の企業を取り巻く経済環境について

話は変わりますが、日本経済は、3.11以降、以前より抱えていた円・原油・原材料・食料の4高に加え、大震災の被災による多くの企業での生産停止、福島原発事故による放射能汚染の問題、全国の原因停止に起因する大幅な夏場のピーク電力削減義務、停電のリスク、を抱える状況となり、各企業にとりましては、大小の差こそあれ、さらに経済的マイナス要因を抱える状況になっている事と推察いたします。

特にあらゆる産業の源である電力不足は深刻となっており、全国の原因停止と共に、電力不足は、東日本だけに留まらず日本全国に広がることとなり、企業にとりましては逃げ場がなくなる状況になりました。

一方、ここに来て、原発を代替するエネルギー源として、風力や太陽光などによる再生可能エネルギーの分散型蓄電システムの導入が、日本でも、以前にも増して脚光を浴びて参りました。また、これらのシステムに用いられるエネルギー平準化のための蓄電池への需要も一気に浮上して参りました。

さらに、これまで日本では、まず無かった計画停電を経験してからは、企業、自治体、家庭などあらゆる方面より、電力バックアップ用の蓄電池の需要が急増しております。すでに、これらの需要を先取りした一部量販店では、まだ高価にもかかわらず、販売が良好であると聞いております。今後、政府、自治体等での蓄電池購入への支援体制が進めば、需

要は、さらに増加するものと思います。電池業界としては、期待の持てる分野です。

●電池工業会の取り組みについて

但し、電池工業会としては、大型蓄電市場の今後の健全な成長を図るためにも、今力を入れておかねばならない案件がございます。それは、「電池の安全性の確保」です。

電池が大型化しており、もし発火事故等が起こった場合、その規模は、過去のPC等での発火事故の比では無いことが容易に想像できます。

電池工業会では、この「電池の安全性の確保」のため、先月、電池工業会規格である、SBA規格を完成しました。この規格は、路上走行用途以外の大型蓄電全用途をカバーするものになっています。今後、電池工業会では、この規格を活用し第三者認証も視野に、より安全性の高い電池システムを市場に供給できる様、努力して参ります。また、この規格を現在作業中のIEC規格へできる限り反映させ、国際規格としていく所存であります。

●電池業界の市場動向について

次に、最近の電池市場の動向ですが、平成23年1～6月の販売で見ると、全電池合計では、数量が前年対比100%の横ばい、金額では96%と、昨年からは残念ながら減少傾向となっています。

電池別に前年対比を見ますと

- ・一次電池は、懐中電灯用などの震災特需もあり、対前年比が、数量で103%、金額で111%と大きく伸ばしています。
- ・小形二次電池は、対前年比が、数量で95%、金額でも87%と大きく前年を割込んでいます。
- ・鉛蓄電池は、対前年比が、数量で95%ですが、金額では105%と伸ばしています。

この様に、3月の東日本大震災は、電池業界にも、プラス、マイナス両面の影響を与えています。この影響は、本年度上期いっぱい、続くものと予想しています。

●今後の電池業界の動向について

以上の様な昨今の電池市場の状況ですが、先にも述べました様に、今年は、3.11の大震災と原発事故以降、国内での大型蓄電池への注目度は、がらりと変わりました。原発事故以降、再生可能エネルギーへの転換の議論が盛んに行われる様になり、太陽光や風力で発電した電力を蓄電し平準化することができると見込める大型蓄電池の市場創出が国内でも大きく見込め



る状況となって参りました。海外では大型蓄電池システムは、スマートグリッドを導入したスマートシティなどで先行して設置されており、その需要は、年々急速に増加しております。

2020年には、大型蓄電池の市場規模は、保守的に見積もっても自動車関連の1.5兆円を上回る2兆円規模に達するとの予測がなされます。また、人によっては、3～5兆円と予測する人もいます。従い、2020年の全電池市場は、スマートフォンやタブレットPC用途など既存電池市場とHEV・EV市場を加えると総額5～8兆円ほどに成長すると見込まれ、心強い次第です。

一方、これら成長分野では、韓国や中国企業との国際競争も激化しております。既に、我々は、民生用電池の分野では、技術流出、円高や法人税のハンディーにより、競争は、劣勢の状態を強いられております。

電池事業が、半導体や液晶の二の舞にならないためにも、新成長分野である「自然エネルギー創出を含む大型蓄電システム」や「HEV・EV」分野では、企業が、国際競争力を維持できる様な政府の支援策を期待しています。とくに、初期の段階では、購入者側への補助を潤沢に行い、ある程度の市場規模の構築を促すことが重要と考えます。

私は、太陽光発電等の再生可能エネルギーと大型蓄電池を組合わせて、10年以内に償却できるくらいの補助がないと国内での本格的な普及は、進まないのではないかと思います。政府にはスピードを持ってこの分野への支援策の導入を期待しています。

勿論、我々企業側も、あらゆる面で日々努力を怠る事無くグローバル競争に勝てる実力をつけていく必要があります。

これに関連し、昨年9月には、平成22年度の政府の第三次補正予算措置の「新成長戦略実現に向けた3段

構えの経済対策」の一部として、将来の大きな成長と雇用創出が期待できるエコカー、リチウムイオン電池、LEDなどの環境関連技術分野での工場立地を支援する1,100億円規模の政府補助金が閣議決定され、電池工業会の正会員、賛助会員からも多数公募され、多くが採択されております。

また更に、この「低炭素型雇用創出産業の国内立地の推進」事業につきましては、平成23年度の通常予算枠として政策提案がされ、「政策コンテスト」と国会審議を経て71億円の予算化が実現しました。

最後になりますが、電池工業会は、電池業界及び電池関連の業界がますます発展され、また、社会に貢献できますよう、全力で取り組んで参る所存です。ご出席の皆様方には、より一層のご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2. 中谷専務理事による 「電池工業会概況報告」(要旨)

●新入会員の紹介

・平成23年4月以降に入会された会員は以下の通り。

4月1日付 日本ゼオン株式会社(賛助会員)

6月1日付 株式会社ケンコー・トキナ(賛助会員)

タカノ株式会社(賛助会員)

東洋合成工業株式会社(賛助会員)

10月1日付 湘南CORUN ENERGY株式会社(正会員)

株式会社キャプテックス(賛助会員)

東洋鋼鈑株式会社(賛助会員)

株式会社村田製作所(賛助会員)

住友大阪セメント株式会社(賛助会員)

●平成23年1～6月の電池市場動向

・全電池生産数量合計は対前年比96%と減少している。この中で、マンガン乾電池157%、アルカリ乾



電池131%等、一次電池関係は大幅に増加した。一方、小形二次電池関係は87%と減少した。二次電池関係は104%と微増した。

- ・東日本大震災の影響が出る形で、それぞれの電池の生産数量が大きく増減した。

●環境問題への取り組み

- ・小形充電式電池の回収は、JBRCで順調に実施している。最近のリチウムイオン電池のコバルト系の比率が減少しており回収費用の点で課題になっている。
- ・ボタン電池の回収は、2009年4月よりボタン電池回収推進センターを設置し順調に行われている。
- ・自動車用鉛電池の回収は、2005年からSBRAを中心に取り組んでいるが、広域認定を取得した上で2012年4月よりSBRAでの回収がスタートすることになった。

●リチウムイオン電池安全性への取り組み

- ・リチウムイオン電池の安全性確保は、2008年に電安法の中で規定されスタートしたが、それ以降は日本メーカーのリコール件数が無くなっている。取り組みの効果がデータの上でも顕著に示されている。

●大形リチウムイオン電池への取り組み

- ・スマートグリッド構想や電気自動車用としての大形リチウムイオン電池が注目されている。現在、各方面で今後の方向性や安全性が議論されており、電池工業会としてもそれら議論に参加している。

●広報活動の紹介

- ・広報活動も活発に行っている。電池の安全な使い方や正しい廃棄の方法など、啓発活動を各方面で実施している。「手づくり乾電池教室」は、北は北海道から南は沖縄まで全国各地で展開している。「でんちフェスタ」は、今年は、名古屋、大阪、東京で実施する。

3. 森口祐子氏（プロゴルファー）による記念講演（要旨）

今回は、プロゴルファーの森口祐子氏を講師に迎え、「ゴルフから学んだもの」と題して講演してもらった。森口祐子氏は、通算優勝回数41勝、生涯獲得賞金604百万円（歴代12位）の実績をもち、1992年には永久シード権を確保している。

- ・（森口祐子氏は）1974年富山女子高等学校を卒業したが、学生時代はバスケット部でスポーツでは



いつも目立つ存在だった。ゴルフを始めたのは、父親についてゴルフ練習場に行ったのがきっかけ。父親の7番アイアン借り練習しただけで、プロゴルファーの道を選ぶことになった。

- ・プロの先生についてゴルフを始めたが、先生からは「樋口久子を倒せるか」と強く詰問された。このことで、プロは目標を持たないと駄目だということを教えられた。周りでは、プロゴルファーになることだけを目標にしている人も多いが、プロが一番になることが目標であることを教えられた。
- ・初優勝の前にも優勝の機会はあった。前半でトップに立ち、そのままいけると思った瞬間に急に崩れることになった。何が悪いかわからなかった。このことで勝負の世界の厳しさとゴルフの怖さが分かった。「失敗は成功のもと」と言う諺があるが、優勝を争っている人にしか「挫折から何かを見出す」ことをできないことも分かった。
- ・真剣に練習しているのは2時間半が限度。「一球入魂」はそんな長い時間はできない。悪いところを改善しようとしても、どこが良くなったかわからなくなることがある。そんな時は、基本に立ち返ることが大切であることが分かった。
- ・勝てるようになると、次は勝つことへの脅迫観念が強くなった。強ければ強いほど、ある日もろくなる。28歳までにゴルフを辞めようと思うようになった。

そのような時期に、いろいろ夫から教えられた。夫より教えられることで、ゴルフだけの偏った人生であったことも知らされた。

平成23年度第2回一次電池部会開催

平成23年9月14日、機械振興会館において須本部部长（日立マクセルエナジー（株））を議長に、平成23年度第2回一次電池部会を開催した。部部长挨拶および専務理事挨拶に続き、事務局報告、各委員会からの活動状況報告があった。



1. 須本部部长挨拶

昨今の円高で厳しい状況が続いている。ギリシャの金融不安で第2のリーマンショックが起こるとも言われている。電子部品やパソコンなどに勢いが無い。スマートホンだけの感もある。この難局に力を合わせて乗り越えていきたい。

2. 中谷専務理事挨拶

電池工業会全体の話として、9月5日に正賛合同会議を開催した。台風で開催の可否をやきもきしたが何とか開催できた。第3次補正予算ではエネルギー関連分野は2000億円規模になるようだ。その内の蓄電池分野も数百億円規模にはなるようだ。電池産業は世界と競争しているが、日本の技術が流出しているのは問題である。ただ、昭和30年代の日本製品は「安かる悪かる」の時代があった。逆の立場になっているが、みんな前向きに考えて新しい考えで乗り越えていって欲しい。変化した社会の仕組みをむしろうまく使うようにして欲しい。

3. 事務局報告

・2011年1～7月の電池販売数量・金額は、全電池合計で、前年比 数量で100%、金額で95%であった。一次電池合計では、前年比 数量で102%、金額で109%であった。特に、マンガン乾電池の数量126%、アルカリ乾電池の数量122%は特異的で、東日本大震災の影響と思われる。

4. 委員会報告

(1) 広報総合委員会

(高尾委員長)

① 展示会・イベント関係

・名古屋でんちフェスタは、7月16日（土）に名古屋市科学館（名古屋市中区）で開催した。名古屋地区での開催は今回が初めて。ステージを中心に展開。約1000名の参加があった。

・関西でんちフェスタは9月10日（土）、11日（日）にキッズプラザ大阪（大阪市北区）で開催した。関西地区では4回目。手づくり乾電池教室を中心に、でんち〇×クイズなどを行った。終始入場者が絶

えることなく、終日賑わった。

- ・でんちフェスタは11月5日（土）に、昨年と同じ日本科学未来館（東京都江東区）での開催を予定。電池エネルー体験教室、手づくり電池教室、電池〇×クイズ等の実施を予定している。

②キャンペーン・PR関係

- ・従来からのテーマ「電池は正しく使いましょう」に加え「電池を使い終わったら・・・」を追加し、PRキャンペーンを11月～12月に展開する予定。また、全国紙（毎日新聞）を使ったキャンペーンは7月に3週連続で実施した。昨年の1.5倍のクイズ申し込みがあり効果を実感した。
- ・「手づくり乾電池教室」は、北は北海道から南は沖縄まで、公募で30か所の応募があった。これに加え10か所以上でも実施している。いずれの会場からも好評をいただいている。

③情報発信関係

- ・啓発用DVDを今年度新たに更新し、より楽しい内容となった。既に電池教室で活用している。

(2) 器具委員会 (大井委員長)

- ・携帯電灯規格SBA S 1601の改訂は、2009年制定のANSI規格との整合性を図ることを目的に作業を進めている。電池の放電終始時間や耐落下衝撃性試験、耐水性試験について検討を行った。
- ・光速の測定方法について、積分球の製造メーカーの工場見学を行い、技術事項のディスカッションを行った。

(3) 資材委員会 (佐藤委員長)

- ・電池主要原材料の輸入関税の現状について調査。電池用に使われるニッケルの現状について調査、データの収集を進めて行く。
- ・電池主要材料5アイテムの市況調査を継続実施中。亜鉛の需要動向は横ばいで現状維持傾向。リチウムの需要動向は安定で横這い傾向にある。

(4) 業務委員会 (平石委員長)

- ・一次電池関係の機械統計や自主統計の内容の分析を行う。両資料ともにホームページに掲載した。
- ・統計資料をもとに国内需要予測を実施。結果はホームページに掲載した。
- ・電池適正表示基準について見直しを行ない、会員

各社に啓発を行っている。

- ・リサイクル工場の見学会を行い、家電4種のリサイクルの現状について研修した。

(5) PL委員会 (兼城委員長)

- ・電池に関する啓発活動を実施する。10月5日には和歌山県で乾電池に関する基礎知識の講演を行う予定。12月8日には兵庫県で二次電池の基礎知識の講演を行う予定。
- ・ホームページのPL関係集計資料について、内容の見直しを行なった。

(6) 技術委員会 (都築委員長)

①規格小委員会活動報告（JIS関連）

- ・JISC8500（一次電池通則）改正審議は、6月の委員会で修正案が出され9月の委員会で審議を予定。
- ・JISC8515（一次電池個別製品仕様）の改正審議は8月にコメントが出され、9月の委員会で審議を行う。10月に本委員会を開催し、2012年2月に日本規格協会に提出する予定。

②規格小委員会活動報告（IEC関連）

- ・IEC60086シリーズの改正審議は、ダブリン会議で課題となった事項について内容の検討を行った。結果は次回ナパ会議で審議する予定。

③リチウム小委員会活動報告

- ・米国航空輸送規制強化のスケジュールが大幅変更になった。リチウム電池輸送に関してICAO会議で審議が予定されている。コイン形二次電池の安全規格がANSI会議において検討されることになった。

(7) 国際環境規制総合委員会 (代理：江川委員)

- ・世界の電池環境規制に関する冊子追補版が8月30日に完成した。各委員に配布した。
- ・米国3州のボタン電池規制は、7月1日前後からの実施予定であったがそれぞれ延期された。
- ・中国版RoHSの発行は2011年夏ごろの見込み。中国版REACHの猶予期間は2011年10月15日に終了する。
- ・欧州指令の容量表示の義務化は2012年5月31日の予定。

以上

「日本乾電池工業会」は昭和23年（1948年）5月7日に創立されましたが、その後の国内の動きは、①昭和24年8月15日に10年にわたる価格統制が撤廃され、②最高40%の高率を課せられた物品税が昭和26年1月1日には廃止されました。また、我が国乾電池工業の生産方式を革新し乾電池品質を飛躍的に向上させたのは、米軍用特需乾電池の受注でした。昭和24年頃から電通省を通じて教育発注が行われ、3社が受注しました。昭和25年6月の朝鮮事変勃発を契機に一躍大量受注となりました。受注量は年々の高低の変動はあったものの、昭和25年以降の9年間の年平均受注量は約8億円で、乾電池総生産高の約2割を占める大きなもので、工業会史上特筆されるべき事項となりました。

この時期における乾電池業者の移動は非常に多く、戦前から在ってこの期間に廃業したのは15社、戦後創業しわずか数年で廃業したのは13社という経過をたどっています。その結果、戦前200余社を数えた乾電池業者の中で残ったのは、高砂工業、神田乾電池、湯浅電池、東洋乾電池、松下電器産業のわずか5社ということになりました。しかし、一方では新たに加わった乾電池業者としては、日本積層乾電池工業、富士電気化学、日東電気工業、三洋電機、京三製作所、日本レイオバック乾電池、等が戦後派としてありました。

この時期は、会社間の連絡を密にするためや情報交換の場として諸種会合が開かれました。電池式受信機協議会（昭和24年～）、一次電池技術委員会（昭和26年～）、空気乾電池協議会（昭和27年～）、JBA乾電池研究会（昭和28年～）、携帯用受信機連絡会（昭和29年～）、乾電池玩具研究会（昭和30年～）、トランジスタ普及会（昭和31年～）、トランジスタラジオ懇談会（昭和32年～）などが開かれ、会合は長いもので4～5年続きましたが、多くは比較的短く自然消滅したものも数多くありました。この中で、一次電池技術委員会はその後も継続され、現在も維持されており、我が国の電池製造技術の発展に大きく貢献することになりました。

昭和31年頃からは、ポケットラジオのトランジスタ化が急速に進み始め、使用電池も小形の006PやR006などの積層乾電池が新製品として加わることになりました。トランジスタラジオの予想外の普及は乾電池の需要の拡大と電池の多品種化の始まりとなります。

昭和31年8月1日には、乾電池および携帯電灯の製造事業者が株主となって、株式会社ヒカリビルを創設しました。昭和32年1月14日にはそのヒカリビルが竣工し（鉄筋コンクリート3階建、東京都内）、日本乾電池工業会はここに事務所を移すことになりました。

* 敬称略



初代会長 岡田悌蔵
(昭和23年5月～昭和32年4月)



2代会長 松尾清雄
(昭和32年4月～昭和38年5月)

平成23年 9月度の電池工業会活動概要

| 部会 | 月度開催日 | 委員会・会議 | 主な審議、決定事項 |
|-----------|------------|-------------------|--|
| 特別会議 他 | 2日(金) | 第111回理事会・第42回総会 | 一般社団法人への移行の為の、「定款」ならびに「申請書類」の承認。 正会員1社、賛助会員4社の入会承認。監事1名の交代承認。理事1名の辞任承認。 |
| | 2日～3日 | 平成23年度正賛合同会議 | 正会員および賛助会員の66社115名が出席し開催。本間会長の挨拶、中谷専務理事の活動報告等を行い、プロゴルファー・森口祐子氏による記念講演を行った。 |
| | 9日(金) | 広報総合委員会 | 関西でんちフェスタ審議、PRキャンペーン内容審議、電池教室報告、他。 |
| | 10～11日 | 関西でんちフェスタ2011 | キッズプラザ大阪にてイベントを実施。多くの親子連れで賑わった。 |
| 二次電池部会 | 5日(月) | 産業用電池リサイクル委員会 | 産業用電池リサイクルスキームの検討。 |
| | 7日(水) | 自動車電池委員会 | BAJ自主取組の広報資料審議、他。 |
| | 7日(水) | 特リ委員会 | BAJ自主取組の審議。 |
| | 8日(木) | 自動車鉛分科会 | EU電池指令、IEC、SBA審議、他。 |
| | 9日(金) | PL委員会 | 事故撲滅啓発審議、他。 |
| | 14日(水) | 電気車用電池リサイクル分科会 | フォークリフト用電池リサイクルスキームの検討。 |
| | 14日(水) | 特リ委員会 | BAJ自主取組審議、他。 |
| | 15日(木) | 小形鉛分科会 | IEC、SBA改正審議、他。 |
| | 16日(金) | 用語分科会 | IEC、SBA改正審議、他。 |
| | 16日(金) | 充電器分科会 | 「浮動充電用整流装置の設計集」作成審議、「据置蓄電池キューピクル」改正審議、他。 |
| | 21日(水) | 自動車電池委員会 | BAJ自主取組の広報資料審議、他。 |
| | 21日(水) | 特リ委員会 | BAJ自主取組審議、他。 |
| | 22日(木) | EV鉛分科会 | SBA改正審議、他。 |
| | 27日(火) | 資材委員会 | BAJ自主取組の審議・活動報告審議、他。 |
| | 28日(水) | 特リ委員会 | BAJ自主取組審議、他。 |
| | 28日(水) | リサイクラー会議 | BAJ自主取組の運用審議、他。 |
| 28日(水) | 合同PL委員会 | 家電PLセンターの講演。 | |
| 小形二次電池部会 | 2日(金) | 再資源化委員会 | 小形充電式電池の識別表示ガイドラインに関する審議。 |
| | 6日(火) | 国際電池規格委員会 | IEC、UL等国际規格についての審議。 |
| | 9日(金) | LIB安全性技術員会 | 内部短絡に対する安全性試験の検討。 |
| | 12日(月) | リチウム二次分科会 | JISC8711の改正提案審議、ANSI、ULの規格に関する検討。 |
| | 15日(木) | 臨時PL委員会 | 蓄電システムの注意パンフレットに関する審議。 |
| | 20日(火) | 国際電池輸送委員会 | ICAO輸送規制対応、リチウム電池輸送の手引書改訂の審議。 |
| | 21日(水) | ニカド・ニッケル水素分科会 | JIS C 8708 改訂審議、容量表示条件審議。 |
| | 22日(木) | 業務委員会 | 8月の販売実績及び動態確認。 |
| | 22日(木) | 据置LIB分科会 | SBA規格のJIS化に向けた取り組みについて。 |
| | 27日(火) | PSE ワーキンググループ | 電安法の例外承認申請対応及び技術基準改定に関する対応。 |
| | 28日(水) | 合同PL委員会 | 家電PLセンターの講演。 |
| 30日(金) | LIB安全性技術員会 | 内部短絡に対する安全性試験の検討。 | |
| 一次電池部会 | 6日(火) | PL委員会 | ホームページの「事故事例紹介掲載」等の検討。 |
| | 12日(月) | 規格小委員会 | JIS C 8500、JIS C 8515、IEC60086シリーズ改正審議。 |
| | 13日(火) | 技術委員会 | 各小委員会活動報告、他。 |
| | 14日(水) | リチウム小委員会 | ANSI規格案検討、米国輸送規則対応検討、他。 |
| | 14日(水) | 一次電池部会 | 各専門委員会報告、他。 |
| 28日(水) | 合同PL委員会 | 家電PLセンターの講演。 | |

アイドリングストップ車用鉛蓄電池「M-42」を開発

新神戸電機株式会社

新神戸電機株式会社（執行役社長：伊藤 繁、本社：東京都中央区）が開発したアイドリングストップ車用鉛蓄電池「M-42」が、2011年9月20日新発売の、ダイハツ工業株式会社「ミラe:S」に採用されました。

世界的に環境問題への意識が高まる中、地球温暖化対策の一つとして、CO₂の削減が強く求められています。自動車においては、ハイブリッド車やEVなどが高い関心を集めていますが、自動車の大半を占めるガソリン車でも燃費向上が求められており、その有効な対策の一つとして、アイドリングストップシステムが高い注目を集め、今後、飛躍的な普及が見込まれています。

アイドリングストップ車は、停車時にエンジンを停止し、ガソリン消費を抑えるシステムです。エンジン停止時のカーナビなどの電気負荷はバッテリーでまかなうため、バッテリーは通常車よりも低い充電状態になる頻度が増え、かつ、アイドリングストップと再始動の繰り返しにより、充放電の頻度が高い環境で使用されることとなります。

「ミラe:S」は、パワートレーンの進化・車両の進化・エネルギーマネジメントの観点から燃費向上を図り、ガソリン車トップとなるJC08モード※で

30km/Lを達成したクルマです。特に、エネルギーマネジメントでは、停車前アイドリングストップ機能付の新「eco IDLE」の採用に加え、オルタネータ回生制御の進化を図っています。これらを実現するためには、バッテリーの耐久性向上や高入力性が重要です。

当社は、アイドリングストップ車用鉛蓄電池を2009年に開発し、2010年3月より、生産・販売していますが、今回開発した「M-42」は、「ミラe:S」に求められる「高耐久・高入力」を実現しながら「高出力」を兼ね備えた、軽自動車のアイドリングストップ車に最適な鉛蓄電池としました。主な特長は次の通りです。

- ①放電深度が深い状態での高耐久化を実現
- ②負極活物質中の新添加剤を採用し、高入力化を実現。
- ③電極構造の変更により、内部抵抗を低減し、高出力化を実現。

今後、さらに国内および中国・タイなどでの海外生産拠点においても、アイドリング車用鉛蓄電池の生産・販売を実施し、アイドリングストップ車の普及、地球温暖化問題に貢献していきます。

※ JC08モード：従来の燃費測定モード（10・15モード）と比較し、より実際の走行に近い燃費測定モードです。（国土交通省ホームページより）

アイドリングストップ車用鉛蓄電池「M-42」諸元表

| 項目 | | M-42 |
|------------|-----|-------|
| 外形寸法(mm) | 総高さ | 227 |
| | 箱高さ | 203 |
| | 幅 | 129 |
| | 長さ | 197 |
| 質量(kg) | | 約11.3 |
| 公称電圧(V) | | 12 |
| 5時間率容量(Ah) | | 30 |

「充電式IMPULSE（インパルス）」シリーズを新発売

東芝ホームアプライアンス株式会社



ニッケル水素電池

東芝ホームアプライアンス株式会社は、業界最高レベル^{注1}の高容量で、フル充電後1年経過しても約85%の電池容量残存率^{注2}を保つ低自己放電タイプのニッケル水素電池「充電式IMPULSE（インパルス）」シリーズを10月16日より発売いたします。

国内のニッケル水素電池市場は、環境意識の高まりを背景に「充電して繰り返し使用できる電池」として伸長を続けており、市場では、特にハイパワーでの長時間使用が多いヘビーユーザーから、高容量かつ低自己放電の充電式電池に対するニーズが強くなります。

当社は、こうしたニーズに応え、高容量のニッケル水素電池を単1形から単4形に6P形を加えフルラインアップで発売します。ハイパワーでの長時間使用を求められるヘビーユーザーから、ゲーム、灯具などまで様々なニーズに応じて選んでいただけます。

充電一回あたりの長持ち性能をアルカリ乾電池と比較すると、特にTNH-3A（単3形、min.2400mAh）

の場合、ストロボ撮影では約2倍^{注3}、電動四駆モデルでは約1.9倍^{注4}、乾電池式シェーバーでは約1.8倍^{注5}、電動歯ブラシでは約1.4倍^{注6}の性能を持っています。

また、「充電式IMPULSE」専用の充電器（単1形・単2形兼用、単3形・単4形兼用、6P形専用）とニッケル水素電池TNH-3L（単3形）およびその充電器を同時発売します。

注1 2011年9月13日時点、ニッケル水素電池の低自己放電タイプにおいて、2011年10月16日発売予定のTNH-1A（単1形min. 8000mAh）、TNH-2A（単2形min. 4000mAh）、TNH-3A（単3形min. 2400mAh）、6TNH22A（6P形min. 200mAh）。JIS C8708 2007（7.2.1）の放電条件に基づく電池容量。

注2 2011年9月13日時点、2011年10月16日発売予定のTNH-1A（単1形min. 8000mAh、放電電流1600mA、放電終止電圧1.0V/セル）、TNH-2A（単2形min. 4000mAh、放電電流800mA、放電終止電圧1.0V/セル）、TNH-3A（単3形min. 2400mAh、放電電流480mA、放電終止電圧1.0V/セル）、TNH-4A（単4形min. 750mAh、放電電流150mA、放電終止電圧1.0V/セル）、6TNH22A（6P形min. 200mAh、放電電流40mA、放電終止電圧1.0V/セル）フル充電後、20°C±5°Cの環境下で1年後初期容量の約85%を維持。

注3 デジタルカメラ部有効画素数=800万画素、液晶モニター=2.5型（インチ）TFTカラー液晶ON、単3形×4本 当社試験に基づくアルカリ1との比較、機器及び使用条件により使用結果は異なります。

注4 連続走行試験、単3形×2本 当社試験結果に基づくアルカリ1との比較、機器及び使用条件により使用結果は異なります。

注5 当社試験結果に基づくアルカリ1との比較、当社乾電池式シェーバーDC-620で1回3分間（1日2回/22°C~26°C）、単3形×2本、機器及び使用条件により使用結果は異なります。

注6 連続稼働試験（26°C）、単3形×1本 当社試験結果に基づくアルカリ1との比較、機器及び使用条件により使用結果は異なります。

新製品の概要

| 品名 | 愛称 | 形名 | 形 | 容量min. 注7/電圧 | 価格 | 発売日 |
|----------|-----------------------|---------|-----|--------------|------|--------|
| ニッケル水素電池 | 充電式IMPULSE (インパルス) | TNH-1A | 単1形 | 8000mAh/1.2V | オープン | 10月16日 |
| | | TNH-2A | 単2形 | 4000mAh/1.2V | | |
| | | TNH-3A | 単3形 | 2400mAh/1.2V | | |
| | | 6TNH22A | 6P形 | 200mAh/8.4V | | |
| | | TNH-3M | 単3形 | 1900mAh/1.2V | | |
| | | TNH-4A | 単4形 | 750mAh/1.2V | | |
| | - | TNH-3L | 単3形 | 950mAh/1.2V | | |

| 品名 | 種類 | 形名 | 価格 | 発売日 |
|--------------|--------------|------------|------|--------|
| ニッケル水素電池用充電器 | 単1形・単2形兼用充電器 | TNHC-12SC | オープン | 10月16日 |
| | 単3形・単4形兼用充電器 | TNHC-34HC | | |
| | 単3形・単4形兼用充電器 | TNHC-3LS | | |
| | 6P形専用充電器 | TNHC-622SC | | |

注7 JIS C8708 2007（7.2.1）の放電条件に基づく電池容量

【経済センサス—活動調査について】

経済産業省・総務省では、各府省協力のもと、平成24年2月1日に「平成24年経済センサス—活動調査」を実施することとしています。

本調査は、我が国の全産業分野における事業所・企業の経済活動の実態を全国及び地域別に明らかにすることを目的としています。調査の結果は各種行政施策の基礎資料としての利活用のみならず、事業者の方々にも経営の参考資料として活用していただくことを目指しております。

本調査の詳細につきましては、当省及び総務省HPにて目的や調査内容などを紹介しておりますので、御参照ください。

■経済産業省HP内

経済センサス—活動調査のページ

<http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/census/index.html>

■総務省HP内

経済センサス総合ガイド

<http://www.stat.go.jp/data/e-census/guide/index.htm>

本調査への御理解と調査票による調査内容の報告について御協力をいただけますようお願い申し上げます。

7月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2011年7月）

単位：数量－千個、金額－百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

（2009年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「二輪用」が含まれました）

（2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました）

（2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました）

（2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました）

（2011年6月より経済産業省の機械統計が「酸化銀電池」に「その他の乾電池」が含まれました。）

| | 単 月 | | | | 1月～当月累計 | | | |
|-------------|---------|--------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|-----------|
| | 数量 | 金額 | 数量 前年比 | 金額 前年比 | 数量 | 金額 | 数量 前年比 | 金額 前年比 |
| 全電池合計 | 471,501 | 60,395 | 96% | 95% | 3,085,925 | 375,507 | 98% | 89% |
| 一次電池計 | 292,271 | 9,312 | 96% | 97% | 2,012,830 | 64,665 | 101% | 101% |
| 酸化銀電池 | 92,122 | 1,635 | 107% | 133% | 608,610 | 10,396 | 100% | 120% |
| アルカリ乾電池計 | 100,836 | 4,455 | 90% | 100% | 800,437 | 33,259 | 119% | 114% |
| 単 三 | 49,305 | 1,674 | 78% | 80% | 436,494 | 15,125 | 113% | 104% |
| 単 四 | 29,842 | 1,079 | 91% | 94% | 208,963 | 6,841 | 119% | 101% |
| その他 | 21,689 | 1,702 | 134% | 142% | 154,980 | 11,293 | 142% | 141% |
| リチウム電池 | 99,313 | 3,222 | 94% | 82% | 603,783 | 21,010 | 85% | 81% |
| 二次電池計 | 179,230 | 51,083 | 97% | 95% | 1,073,095 | 310,842 | 92% | 87% |
| 鉛電池計 | 2,580 | 12,524 | 99% | 102% | 16,579 | 84,461 | 95% | 106% |
| 自動車用 | 1,889 | 7,662 | 97% | 101% | 11,738 | 48,425 | 93% | 104% |
| その他の鉛蓄電池 | 691 | 4,862 | 106% | 103% | 4,841 | 36,036 | 101% | 108% |
| アルカリ蓄電池計 | 58,652 | 14,626 | 94% | 99% | 336,535 | 75,252 | 85% | 73% |
| ニッケル水素 | 39,393 | 12,295 | 102% | 103% | 224,313 | 60,135 | 85% | 70% |
| その他のアルカリ蓄電池 | 19,259 | 2,331 | 81% | 82% | 112,222 | 15,117 | 86% | 87% |
| リチウムイオン蓄電池 | 117,998 | 23,933 | 98% | 89% | 719,981 | 151,129 | 95% | 86% |

7月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2011年7月）

単位：数量－千個、金額－百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

| | 単 月 | | | | 1月～当月累計 | | | |
|------------|---------|--------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|-----------|
| | 数量 | 金額 | 数量 前年比 | 金額 前年比 | 数量 | 金額 | 数量 前年比 | 金額 前年比 |
| 全電池合計（輸 出） | 261,174 | 30,255 | 96% | 97% | 1,547,748 | 180,356 | 90% | 90% |
| 一次電池計 | 116,953 | 2,442 | 101% | 106% | 689,311 | 14,134 | 93% | 91% |
| マンガン | 405 | 12 | 90% | 101% | 5,578 | 149 | 124% | 126% |
| アルカリ | 13,853 | 216 | 68% | 72% | 108,739 | 1,626 | 90% | 79% |
| 酸化銀 | 49,407 | 738 | 119% | 153% | 283,175 | 3,590 | 96% | 114% |
| リチウム | 52,234 | 1,462 | 100% | 102% | 283,129 | 8,251 | 91% | 86% |
| 空気亜鉛 | 1,020 | 10 | 68% | 58% | 8,435 | 89 | 86% | 63% |
| その他の一次 | 34 | 4 | 15% | 9% | 254 | 429 | 16% | 106% |
| 二次電池計 | 144,222 | 27,813 | 92% | 96% | 858,437 | 166,222 | 88% | 90% |
| 鉛蓄電池 | 132 | 660 | 92% | 95% | 911 | 4,601 | 101% | 120% |
| ニカド | 16,303 | 1,491 | 78% | 79% | 89,897 | 8,117 | 82% | 80% |
| ニッケル鉄 | 0 | 0 | — | — | 0 | 1 | 4% | 109% |
| ニッケル水素 | 16,296 | 4,136 | 96% | 103% | 91,664 | 25,304 | 86% | 94% |
| リチウムイオン | 103,061 | 19,397 | 94% | 93% | 638,013 | 115,908 | 92% | 87% |
| その他の二次 | 8,430 | 2,128 | 93% | 153% | 37,952 | 12,292 | 59% | 129% |
| 全電池合計（輸 入） | 99,780 | 8,404 | 123% | 123% | 1,059,537 | 61,444 | 183% | 118% |
| 一次電池計 | 91,232 | 1,297 | 125% | 149% | 1,005,065 | 14,527 | 190% | 218% |
| マンガン | 22,850 | 231 | 125% | 139% | 243,272 | 3,062 | 182% | 234% |
| アルカリ | 57,624 | 772 | 140% | 190% | 668,906 | 8,981 | 219% | 281% |
| 酸化銀 | 295 | 7 | 44% | 64% | 2,839 | 59 | 82% | 51% |
| リチウム | 7,381 | 216 | 82% | 124% | 54,136 | 1,675 | 91% | 115% |
| 空気亜鉛 | 2,696 | 44 | 104% | 117% | 22,397 | 338 | 159% | 139% |
| その他の一次 | 387 | 27 | 24% | 35% | 13,514 | 411 | 114% | 115% |
| 二次電池計 | 8,547 | 7,107 | 110% | 119% | 54,472 | 46,918 | 111% | 104% |
| 鉛蓄電池 | 752 | 2,000 | 119% | 104% | 5,148 | 16,795 | 117% | 119% |
| ニカド | 609 | 238 | 89% | 112% | 3,946 | 1,295 | 89% | 80% |
| ニッケル鉄 | 1 | 0 | - | - | 65 | 13 | 341% | 108% |
| その他の二次 | 7,185 | 4,869 | 111% | 127% | 45,313 | 28,815 | 113% | 97% |